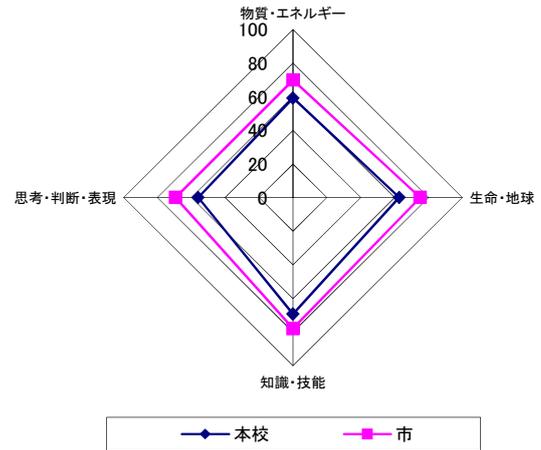


宇都宮市立宝木小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.2	69.9	67.8
	生命・地球	62.7	75.1	73.7
観点別	知識・技能	69.3	77.8	78.4
	思考・判断・表現	55.9	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。</p> <p>○ものを燃やす前後で空気中の二酸化炭素の割合が変化していることについての設問は正答率が82.0%で、市の平均に近い正答率になっている。</p> <p>●ふりこの実験で条件を変えた場合の1往復する時間を予測する設問は、平均正答率が48.0%で市の平均正答率より15.3ポイント低く、結果を推測したり規則性を考えたりする問題を苦手とする傾向がみられる。</p>	<p>・実験器具の使い方や実験の進め方についてはおおむね理解が得られているが、目的のデータを得るためにどのような実験をすればよいかを適切に考えたり選んだりすることは苦手とする傾向がみられる。対照実験で条件を変えることによってどのような違いが生じるかを予測させながら実験計画を立てさせることで、思考を伴った理解に結び付けていきたい。</p>
生命・地球	<p>本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。</p> <p>○植物の発芽や成長に必要な条件を見つけるための対照実験の条件を考える設問では正答率が82.0%で、市の平均に近い正答率になっている。</p> <p>●新月のときの月と太陽の位置関係を考える設問の正答率は63.0%で、市の平均正答率より19.7ポイント低い。</p>	<p>・身近な事象に関する理解は得やすいが、体のつくりなどの目では見えない部分や宇宙などの規模の大きな事象についてはイメージしにくい傾向がある。一人一台端末を活用して視覚的にとらえさせたり、実験器具を用いるにあたってより実感を伴って理解できるよう活用方法を工夫したりするなど、わかる工夫を授業に取り入れていきたい。</p>